

報道関係各位

2019年8月28日

常滑の近代窯業100年の歴史を未来につなぐ
INAXライブミュージアム『窯のある広場・資料館』
3年にわたる保全工事が完了し、新たな展示とともにオープン

株式会社 LIXIL が運営する、土とやきものの魅力を伝える文化施設「INAX ライブミュージアム」(所在地: 愛知県常滑市) は、約 3 年にわたる「窯のある広場・資料館」の保全工事を終え、展示も新たに 2019 年 10 月 5 日 (土) 10:00 リニューアルオープンします。



建物外観 撮影: 梶原敏英

INAX ライブミュージアム「窯のある広場・資料館」は、1921 (大正 10) 年から 1971 (昭和 46) 年まで、土管や焼酎瓶、タイルなどのやきものの製品を製造していた工場を、LIXIL (当時 INAX) が整備し、1986 (昭和 61) 年から公開している LIXIL の文化施設です。常滑の近代産業の営みを伝える貴重な遺産として、1997 (平成 9) 年には国の登録有形文化財 (建造物) に登録、2007 (平成 19) 年には経済産業省の近代化産業遺産に認定されています。築 90 年を超え、建物の老朽化が懸念されることから、2016 (平成 28) 年 12 月から保全工事を実施してきましたが、約 3 年の保全工事を終え、展示の装いも新たに一般公開いたします。

窯と建物、煙突の工事は、常滑の近代窯業における「ものづくりの熱」の記憶を宿す当時の姿にできるだけ近く保全しながら、約 100 年前の姿を更に 50 年、100 年先の後世まで伝えられるものとするを目標しました。外壁の仕上げや、瓦の風合いにもこだわった外観に加え、建物の内部は、煉瓦造の大きな窯の迫力や、太い木材が露出した梁や柱、見上げた天井の小屋組みの様子など、建物自体の魅力を楽しんでいただけるものとしています。展示においては、煉瓦造の窯の中に炎の映像を投影し、当時の窯焼き作業の様子を臨場感いっぱい再現するなど、現代的な技術を用いて幅広い層の来場者に興味を持って楽しみいただけます。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 LIXIL (<http://www.lixil.co.jp/>)

本社: 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビルディング 36 階

報道関係の方から: INAX ライブミュージアム 担当 竹内・内沢 TEL: 0569-36-0206

※ このリリースは、LIXIL ホームページ (URL: <http://www.lixil.co.jp/>) でも発表しています。

<参考資料>

■ 展示概要

1. 「窯プロジェクト」

煉瓦の窯の中に炎の映像などを投影し、窯焚きの工程を臨場感たっぷりに再現。

2. スコープを覗くと見える！「ものづくりの魂」

当時の職人たちが窯を焚いたり、土管を運び込む様子をスコープの中に映像で再現。

3. フォトギャラリー

山田脩二写真展「常滑 昭和 38-39 年」

やきものの街、常滑に魅せられ、街の様子を撮影した若き写真家 山田脩二。昭和 30 年代、土管製造最盛期の常滑の活気が伝わる写真を常設展示。



窯プロジェクトイメージ

4. 「常滑ライブラリー」

明治、大正から昭和まで、常滑の土管づくりの歴史がわかる書籍や資料を展示。

■ 「窯のある広場・資料館」の保全工事について

創建から 90 余年を経た煙突と窯の保全工事は、国登録有形文化財としての価値を維持するため、文化庁指導の下、慎重に進めてきました。特に煙突においては、調査の結果、煉瓦建築の耐震工事として一般的な免震構造台*の上に煉瓦造煙突を乗せる方法をとることができないとの判断から、煙突表面の煉瓦全てに番号をつけ解体し、コアとなる煙突を RC 造で構築した上に、解体前と同じ位置に煉瓦を張付けするという工法を選択しました。煉瓦造の窯については、耐震性能の向上に有効な手段を講じることが困難だったことから発想を転換し、窯内のおよそ半分までを見学者が入れるスペースとして鉄骨でシェルターをつくり、安全を確保しつつ、窯の内観や展示を楽しんでいただけるものとなりました。

木造の建屋は、土管工場だった当時にできるだけ近づけて復元し、大きな窯の迫力や、ダイナミックなものづくりの様子、窯焚きの仕組みを体感いただけるようにしました。屋根瓦は土葺きから棧葺きに替えて軽量化を図り、傷んだ外壁の杉板を、エイジング処理*を施した黒の杉板に取り替ええました。瓦の色合いや風合いにもこだわり、写真家 山田脩二氏が、1980 年から淡路島のだるま窯で焼き続けてきた、「あわじ瓦」を用いています。

※免震台構造台：オイルダンパーなどを用いて振動エネルギーを吸収する免震機構を設置するための台。一般的な既存建築物の免震化の際に、建物をジャッキアップ等で固定した上で建物の下に設置する。

※エイジング処理：新品の素材を経年変化した表情に見せることで、ここでは新品の杉板の表面をウォータージェットで、年輪の柔らかい部分を削り固い部分のみを残した（浮造り加工）

■ 建築概要

「窯のある広場・資料館」

	敷地面積：	992.8 m ²
【建屋】	建築面積：	387.1 m ²
	延床面積：	512.7 m ² (1 階 380.0 m ² 、2 階 132.7 m ²) ※2 階部分を減築
【煙突】	延床面積：	1.6 m ²
	高さ：	22.4 m

窯のある広場・資料館 保全工事Ⅰ期（煙突）

基本設計：日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社

実施設計：南の島工房一級建築士事務所

施工：市田建設株式会社

工期：2017 年 5 月 8 日～2018 年 3 月 31 日

窯のある広場・資料館 保全工事Ⅱ期（建屋・窯）

基本設計：日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社

実施設計：南の島工房一級建築士事務所

施工：市田建設株式会社

工期：2018 年 11 月 29 日～2019 年 9 月 20 日

窯のある広場・資料館 保全工事Ⅲ期（設備）

基本設計：日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社

実施設計：南の島工房一級建築士事務所

施工：市田建設株式会社

工期：2018年11月29日～2019年9月20日

展示計画概要

展示企画：株式会社アクシス

株式会社トラフ建築設計事務所

studio_note(寺山紀彦)

菅 俊一

照明：株式会社遠藤照明

映像：有限会社ルフトワーク

施工：株式会社乃村工藝社

工期：2019年8月1日～2019年9月30日

■「窯のある広場・資料館」のあゆみ

年（和暦）	主なできごと
1921（大正10）年	片岡勝製陶所の土管工場として築窯、操業開始
1971（昭和46）年	操業停止
1986（昭和61）年	「窯のある広場・資料館」として整備、公開開始
1997（平成9）年	文化庁 登録有形文化財（建造物）登録
2007（平成19）年	経済産業省 近代化産業遺産 認定
2016（平成28）年	保全工事のため一時閉館
2019（令和元）年 10月	リニューアルオープン

■LIXILについて

LIXILは、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。ものづくりの伝統を礎に、INAX、GROHE、American Standard、TOSTEMをはじめとする数々の製品ブランドを通して、世界をリードする技術やイノベーションで、人びとのより良い暮らしに貢献しています。現在70,000人超の従業員を擁し、世界150カ国以上で事業を展開するLIXILは、生活者の視点に立った製品を提供することで、毎日世界で10億人以上の人びとの暮らしを支えています。

LIXILなどのブランドを展開する、株式会社LIXILグループ（証券コード:5938）は、2019年3月期に1兆8,326億円の連結売上高を計上しています。

LIXILについて：<https://www.lixil.com/jp/>、<https://www.facebook.com/lixilcorporation/>

■INAX ライブミュージアム概要

やきもの製品のテクノロジー拠点、愛知県常滑市にLIXILが開設する文化施設。「世界のタイル博物館」「窯のある広場・資料館」「建築陶器のはじまり館」「土・どろんこ館」「陶楽工房」「ものづくり工房」の6館から成る“体験・体感型ミュージアム”。

土からやきものまで、その歴史や文化、美しさや楽しさを伝えています。土と陶の魅力に触れる体験教室や企画展、ワークショップも開催。

※「窯のある広場・資料館」は保全工事のため一時休館

所在地：愛知県常滑市奥栄町1-130

T E L：0569-34-8282

休館日：水曜日（祝日の場合は開館）、年末年始

共通入館料：一般600円、高・大学生400円、小・中学生200円

※2019年10月5日より料金改定。

ホームページ：<https://www.livingculture.lixil/ilm/>

LIXIL文化活動 Facebook：<https://www.facebook.com/LIXIL.culture>

